東日本大震災時の避難所における資料保全の取り組み

―長岡市の場合―

田 中 洋 史

（長岡市立中央図書館文書資料室）

はじめに

平成 23 年（2011）3 月 11 日午後 2 時 46 分、宮城県牡鹿半島沖を震源とするマグニチュード 9.0 の地震が発生した。新潟県長岡市は、震度 5 弱を記録。長岡市立中央図書館文書資料室（以下、文書資料室）がある市立互尊文庫の建物でも、ゆっくりとした大きな横揺れを感じた。翌 3 月 12 日午前 3 時 59 分には、長野県北部を震源とするマグニチュード 6.7 の地震が発生。新潟県内では、十日町市・津南町で被害が発生した。

以降、地震・津波・原発事故という未曾有の災害に見舞われた被災地では、資料ネット、行政機関、大学、地域の研究者の方々を中心に、地域の文化遺産を守るための取り組みが続けられている。また、被災した写真アルバム等を思い出の品として保存する様子が比較的早い段階で取り上げられた。

文書資料室の東日本大震災発生当初の対応は、メールを通じてのものであった。3 月 11 日午後 4 時 57 分に新潟歴史資料救済ネットワーク（事務局：新潟大学人文学部・矢田俊文研究室）の関係者宛てのメーリングリストを受信。内容は、被害状況の確認、宮城・福島への募金送付、段ボール箱等の支援物資提供の可能性についてのものであった。翌日、室長は文書資料室の被害状況（保存箱が少し書架から落ちた程度）と、出来うる限りの協力をする旨の返信メールを事務局に返信した。その後も新潟歴史資料救済ネットワークのメーリングリストを中心に、県内の関係機関の対応や、被災地の状況に関する情報を得た。3 月 15 日には、「宮城資料ネット・ニュース」93 号（ＮＰＯ法人宮城歴史資料保全ネットワーク発行、事務局：東北大学東北アジア研究センター・平川新研究室）が配信され、被災した歴史資料の保全活動が開始されつつあることを知った。

東日本大震災の被災地とそれを支援する関係機関・団体による様々な資料保全の取り組みが続く中、中越大震災を経験し、かつ被災地ではない文書資料室ができることは何か。被災地の図書館・博物館からの問い合わせ等もふまえて、室内で検討を進めた結果、長岡市内に開設された東日本大震災の避難所資料の保全に取り組むこととした。本稿は、その中間報告である。

１　文書資料室の「災害アーカイブス」

文書資料室は、平成 16 年 10 月 23 日の中越大震災発生以後、「歴史的資料の救済」と「震災関連資料の収集」を二本柱に災害対応を行っている(1)。今回の取り組みの前提になったのは後者である。

文書資料室が所蔵する震災関連資料は、「災害アーカイブス」として、10 の資料群に分類し、平

成20年8月に第一次公開を行った。その後の追加分を含めて現在、9,651点を公開している（表1）。なお、公開資料は中越大震災に限定せず、前後して発生した7･13水害（平成16年7月13日、新潟・福島豪雨）、新潟県中越沖地震（平成19年7月16日）の関連資料も含んでいる。

表1　長岡市立中央図書館文書資料室「災害アーカイブス」の概要　平成23年12月現在

分類番号	資料群名	概要	点数
01	長岡市立中央図書館文書資料室収集資料	復興イベント、シンポジウム、銀行、防災グッズのチラシやポスターなど（行政が発行したものは含まない）。基本的に一紙のもの（製品紹介のパンフレットは例外的に含む）。シンポジウムなどのチラシは、レジュメ等もそろっている場合は07へ。	322
		個人や企業により寄贈された資料で、01～10に分類されないもの。文書資料室が収集したうちわやビデオテープなど。	
02	長岡市内避難所資料	避難所で配布・掲示されていた資料、避難所で作成された資料。	395
03	長岡市役所資料	各課から提供された資料（主に業務に関するもの）。文書資料室の業務に関するものも含む。各課から寄贈されたものでも、一般に流通している図書や地図は07･08へ。	2,278
04	長岡市内小・中・高等学校・特別支援学校資料	市内の学校から提供された資料。	4,012
05	新聞資料	新聞（原紙、製本した点数）。切り抜きやコピーは含まない。	619
06	行政刊行資料　※1	長岡市が発行した刊行物、チラシ、ポスターなど。	※2
		新潟県が発行した刊行物、チラシ、ポスターなど。	
		国が発行した刊行物、チラシ、ポスターなど。	
		長岡市や新潟県以外の自治体が発行した刊行物、チラシ、ポスター等。	
07	図書資料	図書、雑誌、広報誌（号数がついて定期的に発行されているフリーペーパーなど）、シンポジウムやセミナーの資料。1枚ものの広報紙や新聞折り込みのものも含む。シンポジウムなどの資料でチラシも付属しているものはまとめて図書として扱う（チラシのみのものは01のチラシへ）。	429
08	地図資料	災害に関する地図。自治体発行のハザードマップは行政刊行資料へ。	7
09	写真資料	被害状況、復旧作業などの写真。市内の学校や市役所から提供されたものは含まない。	※3
10	長岡市内コミュニティセンター資料	市内のコミュニティセンターから提供された資料。	1,589
合計			9,651

※1　行政刊行資料は、行政が発行したものすべて（例；地域振興局作成のカレンダーは新潟県へ）。
※2　01から分離。現在、整理中のため、点数は01に含む。
※3　現在、整理中のため、点数が確定していない。

文書資料室の「災害アーカイブス」資料の特徴として、3 つの点をあげることができる。それは、①避難所資料の収集をきっかけとしていること、②市内の学校・コミュニティセンターの悉皆調査を行っていること、③社団法人中越防災安全推進機構と連携していることである。

特徴の第一は、避難所となった長岡市立中央図書館の資料保全を出発点としていることである。『阪神・淡路大震災にかかわる史料保存活動の記録－その時何を考え、行動したのか－』（全国歴史資料保存利用機関連絡協議会近畿部会、1997 年）に掲載された避難所の掲示物を収集できなかったことを省みる体験談を参考に避難所資料の収集に取り組んだ。

避難所は臨時的な施設のため、避難者名簿など、後日、統計資料として利用されるものを除いて、閉鎖時に廃棄されてしまう資料が多い。しかし、例えば、避難所の掲示物・配布物には避難者に向けた生の情報が記されている。時系列的に分析することで、刻々と移り変わる避難者のニーズや行政・事業所・ボランティア等が行った支援の内容を具体的に知ることができる。

特徴の第二は、中越大震災発生 2 年目以降に行った長岡市内の小・中・高等学校・特別支援学校とコミュニティセンターの悉皆調査のことである。震災関連資料の収集は、チラシを作成するなどして広く呼びかけるなどの方法で継続していたが、待ちの姿勢ではなかなか収集が進まないため、公的施設で協力を得やすい学校・コミュニティセンターを悉皆的に調査した。調査は、学校が平成 19 年 11 月から平成 20 年 1 月まで、コミュニティセンターが平成 21 年 12 月から平成 22 年 2 月にかけて実施し、教員・職員が撮影した写真や刊行物など、「災害アーカイブス」の資料群 04・10、5,601 点の資料を収集した。学校・コミュニティセンターは、災害発生時に避難所として機能したところがほとんどで、両者の調査は同時に避難所資料の収集や体験の聞き取りにつながった。

特徴の第三は、資料の収集・活用において、社団法人　中越防災安全推進機構と連携して、取り組みを進めていることである。社団法人中越防災安全推進機構は、新潟県中越地域の教育、研究機関の集積を生かして、多様な主体（行政、教育・研究機関、企業、個人など）が連携、参画することで、中越地震に関する記録や研究活動を推進・支援するとともに、研究成果を安心・安全な地域づくりや防災安全産業の振興に役立てることを目的に活動している。現在、平成 23 年 10 月に開館した長岡震災アーカイブセンター「きおくみらい」の管理・運営も担っている。文書資料室では、前述した学校・コミュニティセンターをはじめ、中越大震災発生以来の新聞（原紙）の保存（製本）、収集資料の展示会などで連携している。特に展示会では、避難所の掲示物・配布物を積極的に活用し、震災を風化させないための取り組みの一つとした(2)。

こうした 3 つの特徴、言い換えれば 3 つの経験から学んだことは、避難所の掲示物・配布物や写真の記録資料としての有用性、連携して行う方法論の重要性であった。経験をふまえて、文書資料室では東日本大震災時の避難所資料の保全による「災害アーカイブス」の 11 番目の資料群の構築をめざして取り組みを開始した。

２　長岡市内に開設された東日本大震災避難所資料の収集

（１）収集までの経過

文書資料室の今回の取り組みは、中越大震災の資料収集が、主に閉鎖後であったことへの反省をふまえて、避難所が開設している期間に開始した。ただ、収集にあたっては、避難所本来の運営業務を妨げないことに最大の注意を払った。そのため、収集開始の時期を 4 月上旬とした。この開始時期の設定は、避難所の初期段階での資料保全が困難になることを想定できたが、3 月中旬以降に本格化した避難者受け入れが落ち着いた時点で取り組みを開始する判断を行った。

年度が改まった 4 月 1 日、資料収集の伺いの起案を作成した。起案の主旨は、依頼文を各避難所

に配布して、収集にあたりたいということである。教育委員会内部（教育部長）の決裁を得て、その後、図書館長、文書資料室長、担当者（筆者）の 3 人で、起案を持ちまわり、市役所内の関係部署に説明して合議を得た。具体的には、危機管理監、危機管理防災本部特命主幹、福祉保健部生活支援課長（供覧：福祉総務課長）である。

合議にあたり、大きな反対意見はなかった。これは、阪神・淡路大震災以降の全国的な取り組みや、長岡震災アーカイブセンター「きおくみらい」の建設が進んでいたことにより、こうした取り組みが市役所内で認知されつつあったことなどが理由と考えられる。ただし、各部署で繰り返し要望されたことは、避難所の現場を混乱させないための配慮と、避難者の個人情報の取り扱いに注意してほしいということであった。後者については、文書資料室が行っている歴史公文書の整理を例にあげて、理解を得ることに努めた。

この持ちまわり決裁の結果をふまえ、依頼文を最終的に一部修正した。修正点は、収集対象はあくまで廃棄・不要になったものであること、収集は避難所職員に負担をかけずに中央図書館・文書資料室・中越防災安全推進機構の職員が行うことの明確化であった。厳密に収集するならば、基準を設けて、避難所職員に依頼・徹底することが必要だったのかもしれない。しかし、これは避難者対応を本務とする避難所職員には不可能である。24 時間交替勤務制の避難所職員の負担となり、一つの業務になってしまうことは容易に推測できた。また、他県からの被災者を受け入れる避難所にどのような資料が蓄積されるかについては、中越大震災の経験をふまえても想像できず、そもそも基準を文面化することは難しかった。

こうした資料保全の限界は、市役所職員の協力により補った。避難所勤務の図書館職員には、個別に協力を依頼し、あわせて無理のない範囲で、依頼文の趣旨を他の職員に伝えてもらった。生活支援課長は、各避難所のセンター長（市職員）の会議で依頼文を配布してくれた。

以上の過程を経て、平成 23 年 4 月 5 日付「避難所資料の収集について（依頼）」（長教図第 2 号、長岡市立図書館長名、各避難所担当者宛）（資料 1 ）は、作成・配布されたのである。

（２）収集の経過

依頼文を持って、初めて避難所の訪問調査を実施したのは 4 月 11 日である。この時の気持ちは、中越大震災後に初めて被災資料の救済活動に行った時と似ていた。緊張感と、どのように声をかけながら避難所資料を収集すれば良いのか、「ためらい」を持った始まりであった。

長岡市は、一般避難所、南相馬市避難者避難所（原発事故による避難者を受け入れる避難所）、福祉避難所（介護が必要な人・妊婦・乳児など災害弱者のサポートに特化した避難所）、介護保険施設で避難者の受け入れを行った[3]。避難所の受け入れ者数は、3 月 24 日には 1,058 人となった。収集対象としたのは、介護保険施設を除く、市が設置した 8 つの一次避難所（表 2･3）である。

調査・収集は、4 月 11 日から 6 月 25 日まで、のべ 26 回実施した。6 月 7 日の調査は、中間的な調査と位置付け、1 日で 5 箇所を集中的にまわった。一次避難所が閉鎖された 6 月 17 日、そして翌日の後片付けでは、分担で避難所へ行き、最も多い数量の資料を保全することができた。また、閉鎖後も避難所のセンター長を通じて、随時、資料を収集した。

調査は、文書資料室と中越防災安全推進機構の職員がペアになって訪問する方法と、文書資料室職員が避難所勤務の際に直接、資料収集を行う方法で行った。前者の方法では、図書館職員が勤務している日時を選んで、訪問することでスムーズに行うことができた。あわせて、支所地域の避難所については支所職員や各施設長の協力を得た。また、福祉総務課は避難所の閉鎖日時、片付け作業の責任者（主に避難所センター長）の所属・氏名などを、その都度連絡してくれた。これにより、閉鎖時の責任者と事前に打ち合わせをすることができた。

避難所閉鎖時、避難者の方々が職員・ボランティアに御礼を述べる場面や、一緒に後片付けを行うすがたに遭遇した。避難所に関わる職員の理解・協力を得る努力が、混乱のない資料保全につながるということは、今回得た教訓の一つである。

表２　東日本大震災避難所資料の保全状況（月日順）

月	日	曜	避　難　所	収　集　者 （数字は人数）	数　　量			備　　考
					箱	封筒	写真	
4	11	月	南部体育館	文書２		1		
4	11	月	北部体育館	文書１	1			
4	25	月	北部体育館	文書１	1			
5	5	木	夕映荘	文書１	1			閉鎖後（4/30 閉鎖）
5	10	火	北部体育館	文書２	2			
5	13	金	ロングライフセンター	文書２		1		
5	26	木	南部体育館	文書２	1			
5	26	木	高齢者センターみやうち	文書１ 栃美１		1		
6	1	水	南部体育館	文書１		1		
6	3	金	北部体育館	文書２		1	64	写真撮影
6	5	日	北部体育館	文書１	8			
6	6	月	高齢者センターみやうち	文書１ 栃美１	1		49	写真撮影
6	7	火	志保の里荘	文書１ 中防１	1			
6	7	火	新産体育館	文書１ 中防１	1		76	写真撮影
6	7	火	南部体育館	文書１ 中防１	1	1	102	写真撮影
6	7	火	ロングライフセンター	文書１ 中防１	1		44	写真撮影
6	7	火	皆楽荘	文書１ 中防１			49	聞き取り・写真撮影
6	16	木	皆楽荘	文書１ 栃支１	2			閉鎖前日
6	17	金	高齢者センターみやうち	文書２		1		避難所閉鎖
6	17	金	新産体育館	文書２	5	1	9	写真撮影（閉鎖時）
6	17	金	南部体育館	文書２		1		避難所閉鎖
6	17	金	ロングライフセンター	文書２	6			避難所閉鎖
6	18	土	高齢者センターみやうち	文書２	3			閉鎖翌日（後片付け）
6	18	土	南部体育館	文書２	8			閉鎖翌日（後片付け）
6	22	水	南部体育館	文書２	1			閉鎖後、福祉総務課より提供
6	25	土	皆楽荘	文書１		1		閉鎖後、施設長より提供
合　　計					44	10	393	

※収集者　文書：文書資料室、中防：（社）中越防災安全推進機構、栃支：栃尾支所地域振興課、
栃美：栃尾美術館

表３　東日本大震災避難所資料の保全状況（避難所別）

一般避難所	箱	封筒	写真
高齢者センターみやうち	4	2	49
皆楽荘	2	1	49
夕映荘	1	0	0
志保の里荘	1	0	0
新産体育館	6	1	85
南相馬市避難者避難所	箱	封筒	写真
南部体育館	11	4	102
北部体育館	12	1	64
福祉避難所	箱	封筒	写真
ロングライフセンター	7	1	44

合計 段ボール箱 44 箱分、封筒 10 包分、写真 393 枚

写真１　避難所の掲示板
（6 月 7 日撮影、南部体育館）

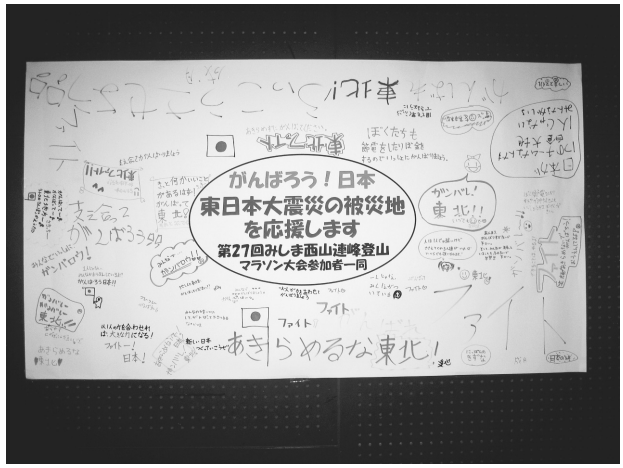


写真２　長岡市民の応援メッセージ
（6 月 3 日撮影、北部体育館）

写真３　南相馬市からのお知らせ
（6 月 7 日撮影、ロングライフセンター）

写真４　避難所の閉鎖作業
（6 月 16 日撮影、新産体育館）

３　今後の課題

（１）どのように整理していくのか

以上の過程を経て、文書資料室では段ボール 44 箱分、封筒 10 包分、写真 393 枚の避難所資料を保全することができた。本格的な整理は来年度以降に予定しているため、詳細に報告することはできないが、取り組みの過程で確認した主な避難所資料は以下のとおりである。

①行政・事業者・ボランティア団体等が作成した被災者支援のための掲示物・配布物。例えば、炊き出しのお知らせ、無料入浴サービスのチラシなど。中越大震災の「ご恩返し」という意識が読み取れるものが多かった。②被災した自治体が被災者に向けて発信した情報。例えば、原発事故の状況を説明する掲示物（主にＦＡＸで長岡市役所へ送信された文書）などである。③避難者への長岡市民からの応援メッセージ。④被災地の新聞各社が避難所に無料配布した新聞。⑤避難者が避難所に残したメッセージ。例えば、御礼の言葉を記した寄せ書きなど。⑥避難所事務室の資料。例えば、避難所の日誌や申し送り事項を記したノート（個人情報が多く、取り扱いは課題）などである。

今後の課題の第一は、これらの資料をどのように整理していくのかということである。問題点を把握する目的も含めて、平成 23 年 12 月 10 日に長岡震災アーカイブセンター「きおくみらい」を会場に、平成 23 年 6 月 17 日に収集した新産体育館避難所資料の目録作成を長岡市資料整理ボランティアの活動として行った（資料２）。

活動の事前準備としては、整理対象の資料が避難所閉鎖時に収集したままであったため、まず仕分け作業を行った。形態・大きさなどを基準に仕分けし、整理番号（仮番号）を付けた。本来であれば、一点一点を保存封筒に入れることが原則であるが、量の問題から行わないこととし、整理番号を資料の情報を損ねない位置に鉛筆書きした。これまでの災害アーカイブスの記入内容をアレンジした目録用紙を準備した（資料３）。

12 月 10 日は、長岡市資料整理ボランティアとしては、初めて「きおくみらい」を利用するため、午前中は施設見学を行い、昼食会をはさんで、午後 1 時から作業に入った。長岡市資料整理ボランティアは、これまで中越大震災の被災した歴史資料（近世・近代資料）の整理を中心に活動したため、今回のように現代資料のみを扱うことは初めてである。あらかじめ、お互い声を出し合い、目録作成の疑問点を確認しながら作業を行いたい旨を説明した。その結果、7 名の参加者により、段ボール 1 箱分の資料 57 点の目録を 1 時間半程度で作成することができた。資料３は、作業の結果をまとめた仮目録である。

写真 5　平成 23 年 12 月 10 日　長岡市資料整理ボランティアによる
東日本大震災避難所資料の整理作業（於きおくみらい）

来年度、文書資料室では平成 17 年 10 月に発足した長岡市資料整理ボランティアの活動を発展的に再編する予定である。今回の結果をうけて、「きおくみらい」と連携しつつ、新たな活動内容の中に避難所資料の整理を加えたいと考えている。避難所資料は、くずし字の解読を伴わないので、より広範な参加者を募ることも可能である。市民協働による資料保存の取り組みとして、今後も活動を展開していきたい。

（２）どのように保存・活用していくのか

東日本大震災の発生から 1 年という現段階で、保全した避難所資料をどのように保存・活用していくのかは今後の課題である。

文書資料室では、震災関連資料の収集を始めた当初から、災害の教訓を後世に伝え、防災・福祉・教育等の諸分野で活用されることを期待していた。また、平成 10 年 4 月に長岡市史編さん室の業務を引き継いで開設した経緯から、50 年後、100 年後の長岡市史に活用できる所蔵資料の構築という目的もあった。東日本大震災と原発事故については、例えば、県外への避難を余儀なくされた被災者に対して市民・事業所・行政がどのような支援を行ったのかなどが、叙述される可能性がある。

自治体史や災害史研究において、災害資料がどのように活用されるのかを検討しながら、どのような資料を、どのような方法で後世に向けて保存していけばよいのかを考えていきたい(4)(5)。

おわりに

文書資料室では、今後も情報交換と経験交流をはかりながら、関係諸機関・団体とのネットワークの構築に努めていきたいと考えている(6)。

未曾有の大災害を前に、被災地で今も続く、懸命な資料保全の取り組みに比して、被災地以外の地域で行った本稿の取り組みがどのような意義を持つのかは、はなはだ不安である。しかし、東日本大震災においては、被災された方々の足跡が被災地以外に残されるというケースが全国的に生まれている。文書資料室の取り組みが、災害記録の保全による東日本大震災像の形成の参考事例の一つとなれば幸いである。

註

(1) 文書資料室の震災後の取り組みについては、長岡市史双書№48『新潟県中越大震災と史料保存（１）　長岡市立中央図書館文書資料室の試み』（2009 年）、同№49『新潟県中越大震災と史料保存（２）　被災資料が地域を語る①　刈羽郡桐沢村青柳家文書』（2010 年）、及び『災害と資料』（新潟大学災害復興科学センターアーカイブズ分野、2007 年～2010 年発行）の各号に掲載された以下の報告などを参照いただきたい。金垣孝二・田中洋史「長岡市立中央図書館文書資料室の取り組み－災害後の歴史資料の保存と活用－」（第 1 号）、星純子「長岡市立中央図書館文書資料室の震災資料の保存と活用の取り組み」（第 2 号）、田中洋史・小林良子「長岡市立中央図書館文書資料室の４年間の取り組み－資料整理ボランティアを中心に－」（第 3 号）、金垣孝二「長岡市立中央図書館文書資料室の５年間の取り組み－「長岡市・文書資料室型」の成果と課題－」（第 4 号）、田中洋史「長岡市山古志地域への文書資料返還－被災資料の現地保存と現地活用に向けて－」（第 5 号）。本稿の内容に関わるものとしては、特に星純子報告、長岡市史双書№48（薤澤梓執筆分）、及び「災害アーカイブス通信」№5（2010 年、文書資料室発行、野村和正執筆分）（資料 4）をご覧いただきたい。なお、文書資料室の震災関連資料の収集は、神戸大学附属図書館震災文庫、阪神・淡路大震災記念人と防災未来センターなど、阪神・淡路大震災における先行事例から多くのことを学ばせていただいている。

(2) 連携して開催した展示会は、以下のとおり（表記のない場合、会場は長岡市立中央図書館）。平成 20 年度「災害アーカイブス展　避難所の記録と記憶」（10 月 19 日～11 月 9 日）、平成 21 年度「中越大震災 5 周年特別企画「復興の軌跡」－おこす　よりそう　つたえる　つなぐ　かんがえる－」（10 月 20 日～10 月 27 日）、平成 22 年度「震災アーカイブ展＠小国」（8 月 24 日～9 月 6 日、於小国商工物産館）・「震災アーカイブ展　中越大震災の記録と記憶」（10 月 19 日～11 月 7 日）など。平成 20～22 年度は、被災地連携企画震災アーカイブ展として、小千谷市、川口町（平成 23 年 4 月に長岡市に合併）でも展示会が行われた。

(3) 長岡市の被災者支援は、「ながおか市政だより」№679～681 2011 年（4 月～6 月）などを参照。長岡市災害復旧支援対策本部（平成 23 年 3 月 12 日設置）は、職員向けメールで「災害復旧支援対策本部資料」を配信し、避難者受入、災害支援ボランティアセンターの活動、炊き出しボランティアの活動、支援相談・避難所相談、職員派遣、物資送付の状況などを伝えている。

(4) 例えば、北原糸子氏は、新潟県・群馬県などの行政資料から、関東大震災における罹災者支援の状況を検証している（『関東大震災の社会史』、朝日新聞出版、2011 年）。同書が紹介する関東大震災における新潟県の対応をまとめた『関東地方震災救援始末』（新潟県、1924 年）には、長岡市の被災者支援に関する記録が収録されている。また、矢田俊文氏は、東日本大震災と原発事故を描くための史料を保存することの重要性を訴え、歴史研究者・歴史学界の姿勢を問いかけている（「東日本大震災と前近代史研究」、『歴史学研究』884、2011 年）。

(5) 本稿では詳細に触れることができなかったが、保存期間が満了した長岡市の公文書については、文書資料室が引き継いで、歴史公文書として保存している。中越大震災関連の公文書もすでに対象となっているが、選別にあたっては、原則として災害に関する簿冊は保存することにしている。個人情報の保護など留意すべき点もあるが、こうした歴史公文書と組み合わせることで、将来、避難所資料を考えていくことも重要になるだろう。

(6) 情報収集不足のため多くを把握していないが、東日本大震災の被災地においても震災資料の保存・活用に向けた動きが進んでいる。例えば、三沢市歴史民俗資料館（青森県）は、活性化事業第 1 回企画展示「地震海鳴りほら津浪 2011～三沢の漁業を襲った東日本大震災～」を開催した（平成 23 年 9 月 11 日～平成 24 年 3 月 11 日）（筑波匡介氏のご教示による）。せんだいメディアテーク（宮城県）は、ホームページなどを通じて震災の写真・動画などを公開している（樋口勲氏のご教示による）。

（付記）本稿は、平成 23 年 12 月 3 日に開催されたシンポジウム「3.11 以後の文化財・歴史資料保全の取り組み－広域大規模自然災害資料保全体制を考える－」（主催：新潟大学災害・復興科学研究所危機管理・災害復興分野、於新潟大学）での報告をもとに、その後の取り組みを加えて作成したものである。表 2･3 は文書資料室の田中祐子が作成した。本稿をまとめるにあたり、目録作成にご参加いただいた長岡市資料整理ボランティアの皆様、資料収集を連携して行った社団法人中越防災安全推進機構の筑波匡介氏、樋口勲氏、山崎麻里子氏をはじめ、ご協力いただいた皆様に厚く御礼申し上げたい。東日本大震災で亡くなられた方々のご冥福を心よりお祈りするとともに、被災地の復旧・復興が一日も早く進むことを願うものである。

資料１

長教図第２号
平成２３年４月５日

各避難所担当者様

長岡市立中央図書館
館長　小　倉　　進

避難所資料の収集について（依頼）

日ごろより長岡市立中央図書館文書資料室の活動に御理解、御協力いただきありがとうございます。

文書資料室では現在、社団法人中越防災安全推進機構と連携して、７・１３水害、中越大震災及び中越沖地震に関する記録・資料を収集・保存・公開しています（別紙「災害アーカイブス通信」№５を参照ください)。

つきましては、東北地方太平洋沖地震における市内避難所資料を下記のとおり収集しますので、御協力の程よろしくお願い申し上げます。

記

１　収集期間　平成２３年４月から避難所閉鎖まで

２　収集対象　廃棄・不要となった掲示物・配布物・チラシなど避難所に関わる文書資料全般

３　収集担当者　中央図書館・文書資料室、及び社団法人　中越防災安全推進機構の職員

４　収集方法
（１）避難所閉鎖時に収集担当者が収集に伺います。
（２）避難所の開設期間中に収集担当者が再生紙袋等に廃棄されたものから必要な資料を収集します。
（３）その他、避難所業務に負担にならない範囲で御協力いただければ幸いです。

〒940‐0065 長岡市坂之上町３－１－20（互尊文庫２階）長岡市立中央図書館文書資料室
TEL：0258‐36‐7832　FAX：0258‐37‐3754　E-mail:monjo@nct9.ne.jp
担当：田中洋史、田中祐子

資料２

平成 23 年 10 月 25 日発行

資料整理ボランティア通信 No.17

今年の 10 月で中越大震災から７年。10 月 22 日、まちなかに、長岡震災アーカイブセンター「きおくみらい」がオープンしました。地震の記憶を伝える施設として注目されています。

これまでボランティアのみなさんから整理していただいていたのは主に地震で被災した古文書・近現代資料、本などでした。今後は新たに、避難所の掲示物など地震の記憶を伝える資料の整理のご協力をよろしくお願いいたします。（小林良子）

11・12月の活動のご案内

○ 研修会「歴史資料保存講座」～大切な史料を未来に伝えるために～

歴史資料の保存について基礎的な知識を学びます。

1　期日　11 月 26 日（土）13：30～15：30
2　会場　中央図書館　講堂
3　講師　㈶新潟県埋蔵文化財調査事業団
　　三ツ井朋子さん

○ 長岡震災アーカイブセンター「きおくみらい」見学、資料整理、懇親会

午前は「きおくみらい」の見学、午後は災害アーカイブス資料の目録作成作業を予定しています。

1　期日　12 月 10 日（土）
2　会場　「きおくみらい」（大手通２－６　フェニックス大手イースト２階
　　TEL0258-39-5525）
3　日程　10:00　「きおくみらい」集合、見学
　　12:00　懇親会（会場未定）
　　13:15　災害アーカイブス資料の目録作成
　　～16:00　作業
4　参加費 1,000 円（昼食代）※当日集めます。

行事の出欠席の連絡：11 月５日（土）までに、電話・ファックス・メールにて文書資料室へお知らせ下さい。

☆活動の記録（ありがとうございました！）

～平成 22 年 9・10・11 月と平成 23 年 6・8 月の活動の参加者は延べ 54 名でした。スナップ写真から活動を振り返ります～

参加人数	期日	活動内容
8 名	9 月 21 日	山古志資料整理作業
10 名	10 月 2 日	飯島村（越路地域）細川家文書クリーニング作業
10 名	11 月 15 日	十日町市古文書整理ボランティアとの交流会
23 名	6 月 25・26 日	山古志資料整理作業
3 名	8 月 7 日	十日町市古文書整理ボランティアとの交流会

▲種苧原村（山古志地域）坂牧家文書の整理（８月６日、旧種苧原小学校）

平成 23 年 10 月 25 日発行
編集・発行／長岡市立中央図書館文書資料室
長岡市資料整理ボランティア
（連絡先）〒940－0065 長岡市坂之上町３－１－20
長岡市立中央図書館文書資料室（互尊文庫２階）
TEL0258－36－7832、FAX0258－37－3754
HP:http://www.lib.city.nagaoka.niigata.jp
E-mail:monjo@nct9.ne.jp

東日本大震災長岡市内避難所資料目録（仮目録）（部分）

避難所名　**新産体育館**　　収集日　平成23 年6月17日

整理番号	表　　題	内　　容	作成者・発行者	宛先	作成年月日(2011年省略)	用紙	形態	数量	備 考
17	東日本大震災１ヵ月	飼い主のために、自宅のシャワー提供の案内。	高和福祉限定タクシー高頭和喜			A4	一紙	1	裏面に住所地図あり。
18	「どうなってペ南相馬」の利用方法登録の手引き	携帯電話(メール)に南相馬の情報をお届けするサービスを紹介するチラシ。	NPO法人住民安全ネットワークジャパン			A4	一紙	1	
19	空き家利用申込書	申込書用紙	長岡市災害復旧対策本部			A4	一紙	1	
20	空き家・アパートを紹介します	住民や企業提供による、家賃が無償又は、低料金の空き家・アパートを紹介する案内チラシ。	長岡市役所長岡市災害復旧支援対策本部　ホームステイ受付窓口			A4	一紙	2	手順と注意点など
21	東日本大震災り災世帯に対する住宅の一時提供について	震災の影響で自宅に居住できなくなった世帯等に仮設住宅等の申し込みの受付をします。	南相馬市役所建築住宅課市営住宅係			A4	綴	3	
22	郵便物等の配達先届	郵便物等の配達と受取を希望する場所を届出する書式。	長岡西支店			A4	一紙	7	
23	転居届	郵便物や荷物を確実に配達するため転居届を提出するように。	郵便事業株式会社				一紙	2	NHKへの連絡も忘れないように。
24	郵便事業(株)お客さま確認シート	郵便物配達のための住所確認。	東北大震災郵便事業新潟県対策本部(日本郵便長岡西支店)			A4	一紙	10	
25	教会のご案内	集会案内など	日本伝道福音教団長岡福音キリスト教会			A4	一紙	10	裏面Googleマップ
26	平成23年7月1日から医療機関等の窓口での取扱いが下記のように変わります	医療機関を利用される人へ向けて、注意事項の案内など。	厚生労働省	医療機関等を受診された被災者の方々へ		A4	一紙	10	
27	①避難先などでも必要な介護保険サービスの利用が可能です②国民年金・厚生年金のお支払いについてのお知らせ③社会保険料の納期限の延長についてのお知らせ④平成23年度東北地方太平洋沖地震および長野県北部地震　母子健康サービスについて⑤視覚や聴覚に障害のある方へ⑥発達障害児・者に対応することが必要な方々へ⑦東日本大震災に伴う雇用保険失業給付の特例措置について	①介護サービス相談。②振込みのお知らせ。③フリーダイヤルに問い合わせして下さい。④妊婦、授乳児の健康について。⑤避難所の職員等に支援の方法をお申出下さい。東北関東大震災視覚障害者支援対策本部の連絡先。東北関東大震災聴覚障害者支援対策本部の連絡先。⑥問い合わせ先。⑦ハローワークの特別相談窓口でも受けつけます。	①厚生労働省②日本年金機構③　④厚生労働省(照会先:雇用均等・児童家庭局母子保健課)⑤⑥　⑦厚生労働省	①被災された高齢者の皆様へ②被災された年金受給者の皆様へ③　④被災した妊婦⑤　⑥　⑦東日本大震災による影響を受けた派遣労働者の方々、派遣元・派遣先の方々へ		A4	綴	1	8枚綴
28	日本年金機構から大切なお知らせです	国民年金保険料の免除についてのお知らせ。社会保険料の納期の延長についてのお知らせ	日本年金機構長岡年金事務所			A4	一紙	10	
29	福島で保護しました！大切にお預かりしています！全17頭	震災時に保護した犬の案内。カラー写真、仮名、性別、保護場所など。	東日本大震災犬猫レスキュー伊豆大島			A4	一紙	10	
30	仮払補償金お支払いのご案内	政府による避難等の指示区域等において中小企業者の方々が被った営業損害の一部を、仮払補償金として支払うこと。	東京電力株式会社　福島原子力補償相談室(コールセンター)	中小企業者(個人事業主・法人)の皆さまへ		A4	一紙	10	

長岡市立中央図書館文書資料室

災害アーカイブス通信 No. 5

▲7・13 水害で被害を受けたファイル
（新組コミュニティセンター寄贈）

文書資料室では、平成 21 年 12 月から平成 22 年 2 月にかけて、社団法人中越防災安全推進機構と連携して市内のコミュニティセンター及び分館（34 カ所）で、7・13 水害・中越大震災及び中越沖地震の災害関連資料の所在確認・聞き取り調査を行いました。今回の災害アーカイブス通信では、コミュニティセンター調査の結果を報告します。

コミュニティセンター調査の報告書まとまる

今回の調査では市内 30 カ所のコミュニティセンターから計 1,562 点の資料を「長岡市内コミュニティセンター資料」として収集しました（整理中の一部資料を除き公開）。特徴としては、復興イベントの写真や、コミュニティセンターで作成した記録誌など、復興関係の資料の多さがあげられます。また、文書資料室の「災害アーカイブス」では点数が少なかった、町内会や自主防災会など、地区の防災活動に関する資料の寄贈もありました。

寄贈された資料の一部を紹介します。左上は 7・13 水害で被害を受けたコミュニティセンターの児童館の業務ファイルです。事務室が浸水したために水浸しになったファイルを、その後乾かして使用してきたものです。表紙に泥がこびりつき、変形してしまったファイルからは、地区を襲った水害のすさまじさが伝わってきます。右は昭和 36 年（1961）に発生した長岡地震の際に、小学生がその体験を書いた文集です。このように 7・13 水害や中越大震災、中越沖地震以外の災害関係の資料を収集できたことも、今回の調査の成果のひとつです。

▲長岡地震に遭遇した児童の文集
王寺川小学校（当時）の 5 年生児童 28 人の目を通して見た地震の様子や復興の様子などが率直なことばで記されている。担任をしていたセンター長が、児童の還暦のお祝いとして 2009 年に再版し、配布した（川崎コミュニティセンター寄贈）。

聞き取り調査では、災害時のコミュニティセンターの様子やその後の復旧活動、現在施設で保管している災害関係資料などについて話を聞きました。保管されていた資料には、避難所となったコミュニティセンターで、避難所の開設から閉鎖までの期間、救援物資の搬入や避難者の出入り、出来事などを数時間単位で記録したメモを綴ったファイルなどがありました。

今回の調査結果をまとめた報告書は、文書資料室で閲覧できます。各地区の情報が共有されることで、今後の防災活動等での活用が期待されます。

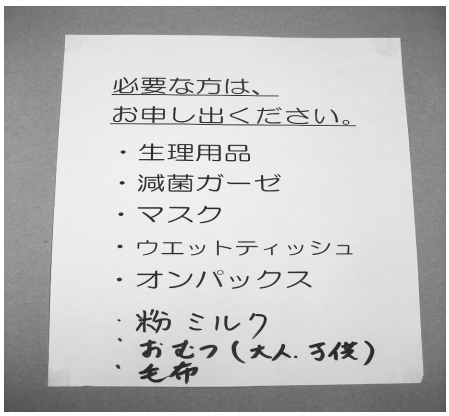
発行日：平成 22 年 3 月 31 日
発　行：長岡市立中央図書館文書資料室
〒940-0065　長岡市坂之上町３丁目１番地 20 長岡市立互尊文庫内
℡0258－36－7832、fax0258－37－3754　　E メール:monjo@nct9.ne.jp
http://www.lib.city.nagaoka.niigata.jp/monjo/index.htm

災害アーカイブスをご利用ください

●災害アーカイブスとは？

災害の風化を防ぎ、災害・復旧・復興により学んだことや経験したことを次の世代に伝えたいという思いから、文書資料室が収集してきた7・13水害、中越大震災、中越沖地震に関する資料です。

▲避難所となった中央図書館正面玄関の掲示板



▲掲示板に貼られた物資提供のお知らせ

●どんな資料が見られるの？

◇長岡市内避難所資料
　中央図書館などの避難所に掲示されていた資料です。

◇長岡市役所資料
　救援物資とともに各地から送られた励ましのメッセージや、お見舞いのお手紙など。

◇長岡市内小・中・高等学校資料
　学校の被災状況などがわかる写真アルバムや文書など。各地からの励ましのメッセージもあります。

◇新聞資料８紙
　平成16年７月から平成19年９月までの製本済みの新聞です。

◇長岡市内コミュニティセンター資料
　各地区で作成された記録誌や、防災関係の資料など。

◇平成22年３月現在で8,906点の資料を所蔵しています。

●利用方法は？

◇どなたでもご覧になれます。

◇各種研究はもちろん、小・中学校での学習などに最適です。くわしくはHPをご覧下さい。

●7・13水害、中越大震災、中越沖地震の記録・資料をご提供ください

◇このようなものを収集しています
　町内会・団体等の記録誌・記念誌、資料類（ビラ、チラシ、壁新聞、社内報、ボランティア情報）、感想文、ノートなど

資料の概要は、長岡市立中央図書館文書資料室ホームページ
http://www.lib.city.nagaoka.niigata.jp/monjo/index.htm でご覧いただけます。

《問い合わせ先》長岡市立中央図書館文書資料室　〒940-0065　長岡市坂之上町３－１－20（互尊文庫２階）
TEL 0258-36-7832　FAX 0258-37-3754　E-mail：monjo@nct9.ne.jp
http://www.lib.city.nagaoka.niigata.jp/monjo/index.htm